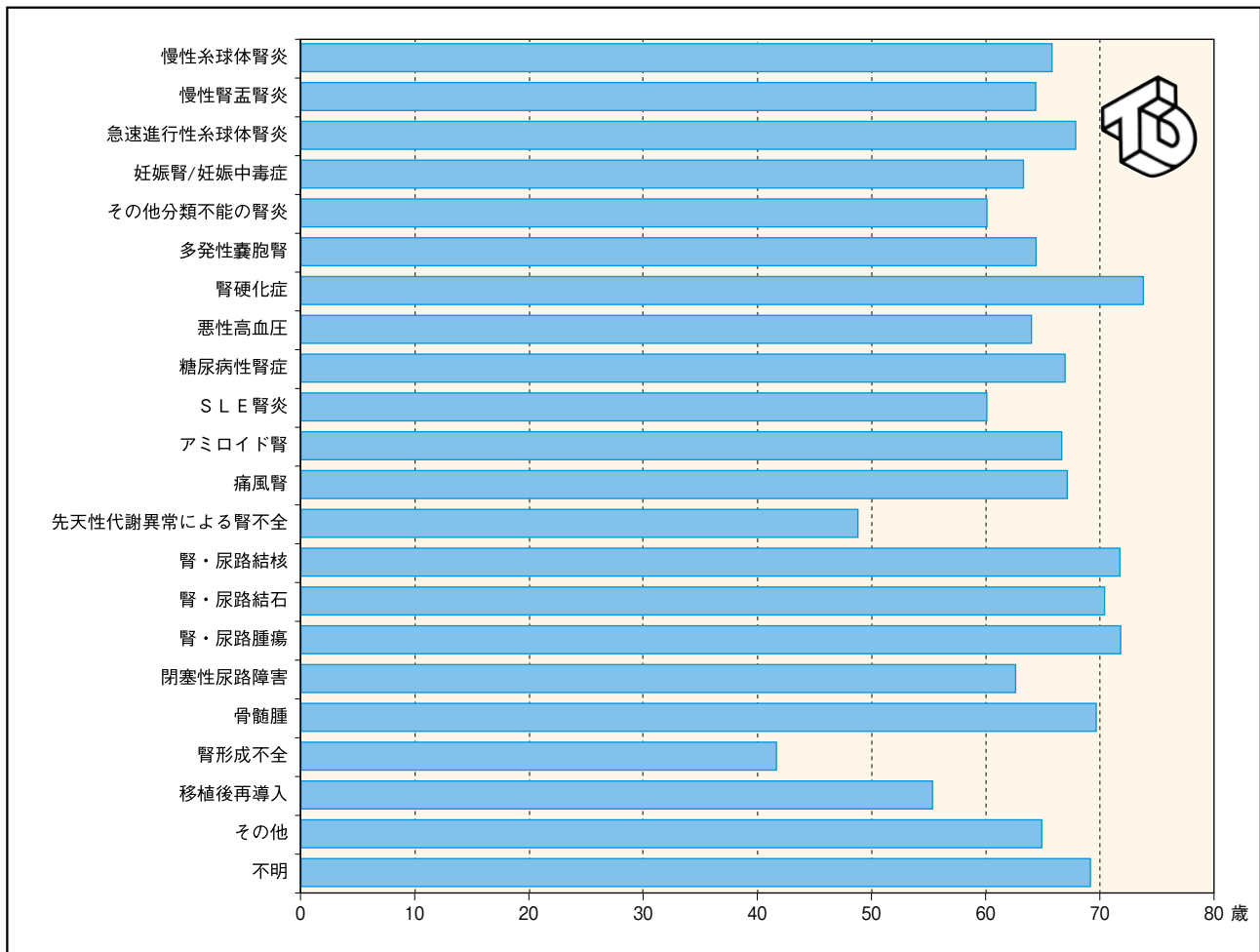


4) 年末患者の現状

(2) 年末患者の原疾患と平均年齢 (図表13)



原疾患	患者数 (%)	平均年齢	標準偏差
慢性糸球体腎炎	101,126 (33.6)	65.77	12.59
慢性腎盂腎炎	3,031 (1.0)	64.34	14.03
急速進行性糸球体腎炎	2,295 (0.8)	67.84	13.39
妊娠腎/妊娠中毒症	1,684 (0.6)	63.27	9.93
その他分類不能の腎炎	1,347 (0.4)	60.07	16.76
多発性嚢胞腎	10,351 (3.4)	64.37	11.21
腎硬化症	24,791 (8.2)	73.76	11.81
悪性高血圧	2,465 (0.8)	63.97	14.88
糖尿病性腎症	111,554 (37.1)	66.91	11.18
SLE腎炎	2,322 (0.8)	60.06	13.58
アミロイド腎	462 (0.2)	66.62	11.35
痛風腎	1,136 (0.4)	67.10	11.33
先天性代謝異常による腎不全	273 (0.1)	48.77	17.55

原疾患	患者数 (%)	平均年齢	標準偏差
腎・尿路結核	250 (0.1)	71.72	9.54
腎・尿路結石	577 (0.2)	70.37	10.60
腎・尿路腫瘍	833 (0.3)	71.78	11.40
閉塞性尿路障害	722 (0.2)	62.58	17.53
骨髄腫	234 (0.1)	69.64	11.22
腎形成不全	606 (0.2)	41.63	19.20
移植後再導入	2,182 (0.7)	55.30	12.61
その他	6,847 (2.3)	64.87	15.83
不明	25,600 (8.5)	69.13	13.16
合計	300,688 (100.0)	66.86	12.54
記載なし	28 (0.0)	74.57	12.85
総計	300,716 (0.0)	66.87	12.54

患者調査による集計

数値右のかっこ内は列方向の合計に対する%です。

解説

2011年から年末患者の原疾患においても糖尿病性腎症が第一位となった。2012年末には糖尿病性腎症は37.1%を占めた。第二位は慢性糸球体腎炎で33.6%であった。糖尿病性腎症は2011年と比べ0.4%増加し、慢性糸球体腎炎は1.2%減少した。2011年には、糖尿病性腎症と慢性糸球体腎炎との差は1.9%であったが、2012年にはその差が3.5%とさらに拡大した。

慢性糸球体腎炎の平均年齢は65.77歳、糖尿病性腎症は66.91歳、腎硬化症は73.76歳であり、それぞれ前年と比較し0.39歳、0.18歳、0.14歳増加した。腎硬化症の平均年齢が高く、先天異常にともなう腎疾患の平均年齢が低いなど、原疾患別平均年齢は原疾患自体の臨床的特徴に影響される部分が多い。